

平成 26 年 4 月 3 日  
JICA 市民参加協力課

より良い国際協力のために～JICA と NGO でできること～  
中部 NGO と JICA 中部との意見交換会 記録

1. 日時：平成 26 年 3 月 16 日（日）午後 1 時半～午後 5 時
2. 場所：JICA 中部セミナールーム B
3. 司会進行：中島（AHI）
4. 目的：中部地域の NGO の活動状況及び各団体の課題とニーズを把握し、それらに対し、JICA が応えられる既存のスキームや、連携によって解決する方法を見出す。
5. 議事次第：

時間	内容
1:30	司会・あいさつ(AHI 中島) 会議の背景説明、目的、達成目標、進め方（名古屋 NGO センター 龍田）
1:35	各団体及び自己紹介(10 団体、19 名) (活動の柱、課題、期待すること)
2:15	アンケート内容の説明、分析、まとめ（名古屋 NGO センターから） アンケートに関する補足及び質疑（NGO から）
3:05	連携事業事例紹介 ・国内アドバイザー派遣（アジア保健研修所：AHI） ・草の根技術協力事業（イカオ・アコ、インド福祉村） ・JICA 基金(ニカラグアの会)
3:25	アンケートに関する JICA 側のコメント（JICA 小原・佐藤）
3:40	ワークショップ 題目：より良い国際協力のために～JICA と NGO でできること～ グループ分け(団体組織強化・海外事業) 各グループ発表
4:50	今後に向けてまとめ（名古屋 NGO センター龍田）
5:00	閉会あいさつ(JICA 小原)

6. 出席者リスト  
NGO （10 団体、15 名）

NGO 団体名	主な活動	氏名
---------	------	----

ニカラグアの会	環境教育、再生可能エネルギー	伊藤
ビルメロの会	ミャンマー医療、教育	広瀬
ペシャワール会名古屋	アフガンでの医療・農業支援、活動広報、資金集め	八木
ACF	農業技術、マイクロファイナンス	鈴木、アスタ
インド福祉村	医療、母子保健	大竹
フィリピン情報センター・ナゴヤ	政策提言	西井
AHI	保健、医療	中島
イカオ・アコ	マングローブ、環境教育、エコツーリズム	後藤
RASA ジャパン	学校建設、奨学金、給食、貧困家庭への就業支援	藤井、杉山
CDIC	農村開発、植林	杉本
名古屋 NGO センター	市民活動、研修	龍田、山崎、門田

#### JICA 中部 (4名)

役職	氏名
市民参加協力課専任参事	小原 基文
市民参加協力課調整員	畑山 ゆかり
市民参加協力課調整員	江口 香里
市民参加協力課調整員	佐藤 邦子

#### 7. ワークショップ内容 要旨

##### (1) 参加団体による活動紹介

各団体から「主な活動内容」「団体が抱えている課題」「ワークショップに期待すること」の3点を発表してもらった。参加団体同士が横のつながりを持つために、活動内容はもとより、同じような課題を共有できたことは有意義であった。特に課題については、団体関係者の高齢化や後継者探しに対する不安、持続可能な助成金確保、現地の自立につながる活動などが挙げられた。特に、団体の活動に関ることができる若い世代との接点を持つために、JICA 青年海外協力隊との連携を期待する意見が出された。

##### (2) 名古屋 NGO センターによるアンケート

名古屋 NGO センター（略称：NANGOC）は今回のワークショップ参加団体を含めて約 33 団体に聞き取り調査を行い、NGO の独自性に沿った支援策のあり方や活動を促進する方策などについて考える機会として実施した。

アンケートを実施した結果を得て、NANGOC 及び JICA にとって非常に有効的な情報となった。（別添 1 参照）

ワークショップ参加者からの補足意見として、草の根支援型を受託し、終了したあと、正直に言って事務処理にかかる労力を要し、継続して申請することを少し休憩したいと思った。ただ、草の根支援型を通じて NGO の組織が強化され、運営能力が向上した。また、現在の草の根スキームの手前のような小規模なスキームによって、専従職員なしで現地が自立できる支援を行っていききたい。

### (3) 連携事業事例紹介

#### ア. 国内アドバイザー派遣（アジア保健研修所：AHI）

2010 年度 JICA アドバイザー派遣の活用として、ファンドレージングアドバイザー派遣を要請した。予算は専門家に約 100 万円の謝金を支払った。8 回にわたる研修で、AHI 支援者の拡大計画、広報やホームページの改善、団体の活動の見直し、支援者からのアンケート集計の分析などの指導を得た。専門家からの助言は団体の活動全体に影響があり、飛躍したと思われる。

#### イ. 草の根技術協力事業（インド福祉村）

18 年間の公衆衛生及び乳幼児支援活動実績があるが、専従駐在員がいないと運営ができないため、草の根スキームは有効的に受託できた。しかし、事務処理が大変だった印象がある。しかし、同スキームのおかげで、インド在外事務所との連携が密にとれ、インド全般にかかる情報共有ができた。JICA 基金では、妊産婦手帳を作成し、活動に活かすことができた。

#### ウ. JICA 基金(ニカラグアの会)

太陽光発電パネル（手作り可能）の普及活動を実施した。助成金は書類審査のみで、会計処理も単純なものであった。単年度契約で、渡航費が予算から捻出できなかった。

### (4) アンケートに関する JICA 側のコメント

ア. これまでの NGO の課題として現地の自立に向けた活動について意見が出されていたが、JICA として草の根スキームを使って、どのように自立を目的とした活動内容を盛り込めるか相談ベースで一緒に考えていくことが可能である。また、草の根スキームにかかる事務的な処理について、複雑性はあるが気軽に相談してもらいたい。（佐藤）

イ. NGO 関係者の高齢化に伴う世代交代の課題に関し、JICA 青年海外協力隊との連携についてご意見をいただいたことは、JICA として今後つなげていくことが可能だと考えられる。ただし、すでに帰国した協力隊 OB は JICA とは別の組織で活動をしており、協力隊 OB 会主催の協力隊帰国報告会及び人脈の紹介となる。また、昨年度は NANGOC 主催で国際協力カレッジが開催され、参加団体とイベント訪問者とのマッチングブースを設けたことで、NGO の活動に興味のある若者の来訪が見込めた。今後このような場を JICA としても検討していきたいと思う。(小原)

#### (5) グループディスカッション

参加団体が二つのトピックで別れ、フォーカスグループディスカッションが行われた。

#### ア. グループ A : 国内事業にかかる運営、組織強化

発表者 (山崎 NANGOC 理事)

- ・助成金は東京集中型ではなく、地方分散のあり方が良いと思う。  
たとえば、各 JICA センターに予算があり、地方のニーズ実績にあった取組ができるなど。NGO の活動が活発になると地方が元気になっていき、ローカルの力が海外での活動につながっていくという循環の仕組みを生み出せる。
- ・事業仕分けのしめつけが、短期的な成果主義への傾向を強めているが、地域に根差し地方が活発になるような国際協力の動きを培っていくためには長期的に取り組む姿勢が必要である。また、縦割り、トップダウンではない地域の多様なステークホルダーが関わって地域力を高めていけるような横断的ボトムアップの仕組みが必要である。
- ・各地方の NGO を対象にした経験交流的な研修 (知識や技術のインプット型ではなく、事例研究のような相互の学び合い) があるとよい。内発的な学びや横のつながりを期待したい。
- ・中小企業に対して創業支援があるように、NGO に対しても創業支援があるとよい

#### イ. グループ B : 海外事業にかかる活動、スキーム

発表者 (龍田 NANGOC 理事)

- ・現行の研修のあり方ではなく、NGO と JICA 相互が高めあっていけるような内容であること。
- ・NGO を立ち上げるための研修や支援があってもよい。
- ・JICA 事業を受託した NGO の体験談などの情報共有の場がほしい。

- ・協力隊との連携の可能性として、JICA 在外事務所とのつながりもあるとよい。
- ・協力隊帰国報告会などで現地の情報共有ができる。
- ・JICA 中部のタベなどを活用し、JICA 関係者との人脈的なつながりをつくる。
- ・草の根スキームの案件形成における相談に、JICA 市民参加協力調整員を活用してもらいたい。
- ・草の根スキームには NGO が国内で研修を受け入れることができる。

#### ウ. 発表者（西井 NANGOC 理事）

- ・団体として初等教育を支援したかったが現地のニーズは高等教育であった。その理由としてカウンターパートと綿密な連絡やコミュニケーションが取れていない。
- ・NGO 同士の横のつながりを強化することで、情報共有ができる。
- ・ニカラグアという国が日本から遠方なため、支援に困難をきたすことがある。
- ・できるだけ若い人たちに関心をもってもらうことで、支援者の継続性が図れる。
- ・草の根技術協力より小さなスキームがあると使いやすい。ただ、JICA 基金は渡航費が計上できないことから、考慮があればなおさら良い。
- ・JICA ボランティアとの連携を強化していきたい。

#### (6) まとめ

今回のワークショップでは、各 NGO 及び JICA との率直な意見交換ができた。課題を見据えることで、今後、NGO と JICA との連携に役立てたい。また、NANGOC がまとめてくれたアンケートには非常に感謝している。アンケートの結果を真摯に受け止め、今後もこのような意見交換の場を設けながら協力していきたい。（小原）

以上



グループディスカッション発表



グループディスカッション発表



参加者活動紹介